最近の動き

女性医師・研究者支援センターの活動紹介

女性医師・研究者支援センター　センター長　　松村 洋子

はじめに

近年、医学部生の約3分の1が女性となり医師における女性の割合が高まっています。一方で、女性医師はそのライフイベント等から男性医師と比べてキャリア形成が難しい傾向があります。当センターは、厚生労働省の医師の働き方改革の提案を受け、女性医師のキャリア形成支援を主な目的として2018(平成30)年に設置されました。2022(令和4)年には対象を研究者にも拡大し、名称を女性医師支援センターから女性医師・研究者支援センターに改称しています。発足当初は女性医師がライフイベントに応じてキャリアを継続できるように支援することを中心に取り組んでいましたが、現在では女性医師のみならず職場全体の働きやすさの向上を目指して活動しています。

ここでは当センターの４つの柱、キャリア・復職支援、子育て支援、ライフイベント支援、情報提供を中心に活動内容を紹介します(図１)。

1. キャリア・復職支援

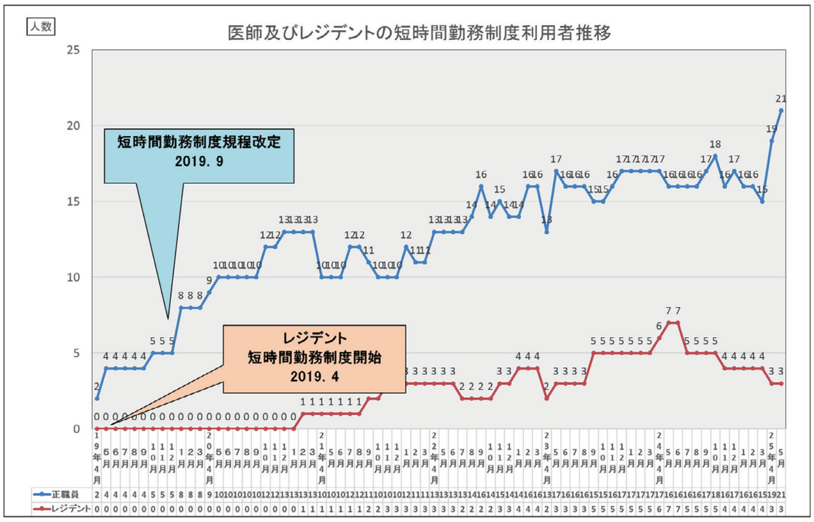
短時間勤務制度の整備と復職支援などを通じて、女性医師・研究者がライフイベントを迎えても継続的にキャリアを築けるよう支援しています。

短時間勤務制度

2019(令和元)年レジデントの短時間勤務制度を導入し、正職員の短時間勤務制度の改正(医

図１：当センターの４つの柱

図２：本学独自の短時間勤務制度



正職員（医師）	対象者	8歳未満に達する年度末まで
	勤務時間	1日4時間以上を週2日以上
	賃金	実労働時間分。但し、子が3歳に達した日が属する月の翌月以降は80%

レジデント	対象者	小学校就学前
	勤務時間	1日4時間以上を週2日以上
	賃金	実労働時間分。但し、子が3歳に達した日が属する月の翌月以降は80%

師の兼業許可など）を行い、柔軟な働き方を可能にしました。2025（令和７）年３月現在24人の先生方にご利用いただいています（図２）。

復職支援プログラム：
グリーンアップルプロジェクト

　出産・育児・介護などにより一時的に現場を離れた医師や研究者がスムーズに復職できるよう、「グリーンアップルプロジェクト」を実施しています。各診療科のご協力のもと、個々の事情に応じた柔軟な研修内容を提供しており、これまでに３人の先生方がこのプログラムを利用されました。2024（令和６）年度は糖尿病代謝・内分泌内科に受け入れていただきセンターより感謝状を贈呈しました（写真１）。

写真１：贈呈した感謝状
写真左より佐野浩一学長、今川彰久教授、筆者

2. 子育て支援

　仕事と育児を両立しやすい環境を整えるため、院内保育施設の拡充や支援制度の充実に取り組んでいます。

院内保育施設・保育支援制度

　院内保育施設「バンビ保育室」では、一時保育や病児保育の利用対象を拡大し、より多くの先生方に活用いただけるよう整備を進めています。特に、一時保育・病児保育の希望者が円滑に利用できるように、利用申し込みの簡略化や近隣保育園との連携を強化するとともに、ベビーシッター派遣事業の割引券補助や訪問型病児保育の利用補助など、多様な支援策を導入しています。詳細をホームページに掲載していますので、ご利用を検討される方はいつでも窓口までお問い合わせください。

学内交流会の実施

　女性医師・研究者が自身の経験を共有し、

キャリア形成の課題を議論する場として年１回学内交流会を開催しています。2024（令和６）年度は「先輩に聞いてみよう」とし、様々な支援制度を活用しながら活躍されている先生方にご発表いただきました。困難な状況に直面した時にどう乗り越えたのか、どのようなサポートが良かったのか、など参加者同士の意見交換もできて有意義な交流の場になりました。また現在の困りごとについて直接お話を伺えたことを活かして、今後の有用な支援拡充に繋げたいと思っています（写真２）。

写真２：学内交流会

3. ライフイベント支援

女性医師・研究者がライフイベントを迎えても安心して働き続けられるよう、マタニティ白衣の貸与制度や各種休暇制度などの情報提供を行っています。

休暇制度・支援情報の提供

結婚・妊娠・出産に伴う休暇制度について、ホームページで詳しくご案内しています。最近では産休後の柔軟な働き方を支援する制度が整備されており、育児休業中の臨時・一時就労が可能（半育休）になっています。ご検討の方はセンターの窓口にお問い合わせください。

イクボス推進活動

職場環境の向上に向けて、管理職者の育児支援への理解を深める「イクボス宣言」の推進活動を行っています。2025（令和７）年３月末時点で182名のイクボス宣言者が登録しており、組織全体での意識改革が進んでいます。イクボス宣言は随時受け付けています。

女性医師・研究者支援センターの今後

当センターの各種支援についてはホームページに詳細情報を掲載しており、最新の取り組みを随時更新しています。また月１回ニュースレター「Smart News」で、センターの支援や活動内容を学内関連部署に配信しています。さらにLINE公式アカウントを開設し教職員向けにお役立ち情報やイベントの案内を配信しています。ぜひご登録いただき最新情報をご活用ください（図３）。

図３：センターの公式LINEアカウント

友達登録は
こちらから

他大学との交流

2024(令和6)年は「第2回 近畿地区近隣医科大学 医療職サポート事業　共同フォーラム」に参加し、京都府立医科大学・関西医科大学・兵庫医科大学・奈良県立医科大学・滋賀医科大学など他大学との連携・情報交換を積極的に進めています。(写真3)

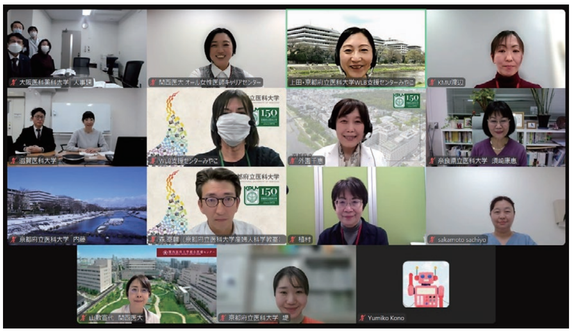


写真3：第2回 近畿地区近隣医科大学
医療職サポート事業　共同フォーラム

4. 情報提供

現在センターは副学長、副院長、大阪医科薬科大学医師会会長、教授、講師、助教、事務職員、そして外部アドバイザー(高槻市立子ども保健センター管理医師)、オブザーバー(学長)の協働体制となっています(写真4)。センターの認知が広がり、多くの皆様から貴重なご意見やご相談をいただけるようになりました。これらの問い合わせ内容や要望事項をセンター会議で報告・情報共有を行い、現在施行されている制度の見直し等も含め、関係各部署のご協力のもと段階的に改善を進めています。今後も、女性医師だけでなく職場全体が働きやすい環境となるよう引き続き努力して参ります。

結びに際しまして、皆様のご理解とご協力に、心より御礼申し上げます。今後ともご支援とご指導を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

お問い合わせ

女性医師・研究者支援センター
窓口　法人事務局内(本館・図書館棟1階)
TEL(072)684-6220(内線 3293)

写真4：センター集合写真(2025年3月)